

第12回 GX実行会議

「我が国のグリーントランスフォーメーションの加速に向けて」

2024年8月27日

三菱商事株式会社

常務執行役員電力ソリューショングループCEO

岡藤 裕治

GX実行会議（第12回）レジュメ

今回、ご提示頂いた論点に沿って以下コメント申し上げます。

1. エネルギー・GX産業立地

- **産業競争力の源泉はエネルギーのコスト競争力**である。日本の産業の空洞化を防ぐためにもエネルギーコストを持続可能な形で下げていくこと、即ち**再エネ等クリーンエネルギーの安定的な供給と効率的な活用**が求められる。
- エネルギーコスト低減の実現に向けて、再エネのサプライチェーン全体を通じて各ステークホルダーが必要とする支援策を導入、具体的には、**グリーン水素・アンモニア向け支援と同様に、再エネ事業者やメーカーへの支援に加えて、再エネ需要家に対する支援策を導入頂きたい。**
- **政府と民間事業者の適切なリスクシェア**も重要なポイント。事業環境の不確実性が高まる中、国が適切なリスク補完を行う仕組み、例えば市況や為替の変動等、事業者がコントロール出来ない**外部要因による影響を一定程度調整する仕組み**があれば、事業者の長期予見性は高まり、その分エネルギーコストを下げる事が可能になる。

2. GX産業構造

- 経済成長という観点では、世界に伍して競争に勝ち抜くことが極めて重要。**日本発のグローバルプレイヤーを戦略的に支援**する発想を持ち、重点分野に対して時期を逸することがないように**スピード感を意識した支援**をお願いしたい。
- 日本の産業競争力の強化に向けて、**GXとDXを両輪で同時進展させる方向性**には同意する。確りとしたグランドデザインの下で推進されることを求めたい。再エネ事業者としては、AI基盤となるデータセンター整備に関しては、需要拡大という観点に加えて、AI/デジタル技術を活用した再エネ・DERの電力需給管理機能といった事業への利活用という双方の観点から意義を認識している。

3. GX市場創造、グローバル認識・ルール

- **GXの価値が評価される市場造り**には賛同。日本の産業構造上、評価の仕組みが日本国内に閉じているとその実効性は低いと考えられる為、**他国とも連携した市場造り**を期待したい。またGXの価値は非化石価値に限定されるものではなく、**付加価値をより高く評価する需要家が自社製品をより差別化できるような仕組み**も必要ではないか。

4. 最後に

計12回のGX実行会議を通じて、日本の「**産業競争力強化**」に資する**GX実現**に向けた基本方針、加えて基本方針の具体化に向けた打ち手の方向性が示されたことを評価したい。今後、一貫性のある方針の下、各種支援策が迅速に実行されることを期待する。